

岩手県支部

「開業 20 年を迎える盛岡手づくり村」に関する調査研究

盛岡市の郊外・繋（つなぎ）地区に昭和 61 年 5 月に創設された盛岡手づくり村は、岩手県を代表する地場産業の工房を備えた集団化の事例として、全国的に注目を集めた施設である。開業後ほぼ 20 年を経た現在においても、なお各地からの視察団の来訪が続いている。

今年度の調査研究事業に盛岡手づくり村を取り上げることにしたのは、手づくり村が平成 18 年 5 月に開業 20 年の節目を迎えることになるので、開業後の歩みを辿りながら、さらに今後の目指すべき方向性について提言をしたらどうかとの思いがあったからである。

最近の盛岡手づくり村にとっての課題の 1 つとして、入場者の減少があげられる。たしかに入場者が減少することは施設そのものの存在価値を低下させることになる。しかし、先にも述べたとおり、盛岡手づくり村は本来地場産業の生産設備の集合体であるから、純然たる観光地とはややおもむきを異にしていることも確かである。ここで生産された製品の多くは、いろいろな媒体を経由して広く販売されている。さらに最近は、通信販売も大きなウェイトを占めている。

今回の調査研究は、盛岡手づくり村の「現状と課題」及び「今後の展望」を述べることに主眼を置いたが、併せて、15 工房の紹介にも大きく紙面を割いた。これは、当支部の 5 名の会員が、それぞれ手分けをして代表者にインタビューしてまとめたものである。15 工房のうち、14 工房は盛岡手づくり村開業当時の企業であり、つい最近入居した 1 工房を加えた 15 企業が、手づくり村の発展に力を合わせて取り組んでいる。特筆すべきことは、20 年間に撤退した工房が 1 件もないことである。バブル経済破綻後の長引く不況に耐えて、ここまで頑張り続けてきたことに心から敬意を表したいと思う。

今後の振興について、この調査報告書でいくつかのアイデアを提供しているが、これらはほんの思いつき程度のものでしかないかもしれない。むしろこれらをたたき台にして、関係者による具体的な話し合いの場を持ってもらえればと思う。

最近は大型観光バスを連ねての団体旅行が減り、マイカーによる家族連れやグループ旅行、さらには若いカップルのドライブなどが増えている。受け入れ施設側がこのような変化にいかに対応するかが問われている。また、インターネットによる的確な情報の提供や、通信販売への対応にも積極的に取り組まなければ時代遅れになってしまう。

観光施設が発展するためには、遠くからの観光客も必要であるが、それと同時に近くのリピーターへの対応も欠かせない。そのためには、つねに目新しい施策やイベントへの取り組み、さらには新製品の開発や、清潔な環境の保持、顧客をなごませる接客対応など、取り組むべき課題は多い。